

## 「友達」

1年 Y・Mさん

私はこの本をよんで、「友達」という存在について初めて理解できました。本を読む前の私は、「友達」とは一緒に遊ぶ人のことだと思っていました。しかし、物語の中のアヤカちゃんは「友達」にかこまれているのにガルドが見えるのでふしぎに思いました。私は友達と遊んでいるときにさびしいとは感じません。友達と一緒にいるのにさびしい気持ちになるのはどんな時なのか考えてみました。例えば、友達が自分の話を聞いてくれない時や自分の気持ちをわかってもらえない時です。きつとアヤカちゃんは、自分の気持ちをわかってくれない友達にかこまっていたのだと思います。

私には、とてもすばらしい「友達」がいます。一緒に遊び、一緒に学び、一緒に悲しむことができる友達です。時々、けんかもあります。しかし、おたがいの気持ちを話し合い、おたがいにゆすり合うことができます。仲良しですがライバルでもあります。勉強や自転車など、どちらがどれくらいできるのかきそい合います。教えたり教わったり、先生と生徒みたいな時もあります。どんな時もあるようなことを共有できるのが「友達」なんだと知りました。

これからたくさんの人と出会う中で相手から私のことを「友達」だと認めてもらうために、相手の話を聞き、相手のことを知り、相手の気持ちを分かろうとする心をわすれないようにしようと思います。誰かの「友達」になれるよう、誰かのさびしい気持ちが入らせるように心がける人になりたいと思います。